

気象庁業務信頼性向上対策要綱の概要

きめ細かな気象情報を迅速・正確・確実に提供することが気象庁の使命。高度情報化社会において情報の誤りは大きな社会的混乱を招きかねないことから、業務信頼性向上に向けた対策の基本的な指針として本要綱をとりまとめた。

システム関連

ミスの分析

- － 直接要因
 - ・ロジック誤り、バグ、パラメータ設定ミス等
- － 影響発生を阻止できなかった要因
 - ・点検不十分、運用試験未実施
- － 背景要因
 - ・システム大規模化等

具体的対策

- ・整備・改修の計画段階におけるシステム構成・仕様・試験内容等の点検
- ・整備・改修実行段階の適切な工程管理
- ・運用開始前の十分なシステム試験の実施
- ・運用段階における監視、改善
- ・定期的な点検の実施

人為的ミス

- ◇ミスの発生から影響発生阻止失敗まで
 - － 直接要因
 - ・マニュアル不適切、不注意、不作為
 - － 影響発生を阻止できなかった要因
 - ・チェックリスト不適切、情報共有不足
 - － 背景要因
 - ・システムの問題、理解不足等
- ◇不適切な事後対応
 - ・マニュアル不適切、不慣れ

- ・マニュアル・チェックリスト改定
- ・作業進捗状況やミス事例等、情報共有の強化
- ・障害対応等を含めた訓練・研修の実施
- ・管理職等による適切な作業管理
- ・ミス発生させにくいインターフェイス等、システム改良
- ・外部講師の講演等を通じ、新たな視点の導入

全庁的な取り組み体制強化

- ・体制 : 全官署で信頼性向上対策委員会等設置、危機管理調整官を中心に実務体制整備
- ・意見交換活性化 : 幹部と現場職員のダイレクトトーク、業務横断的な業務改善ミーティングの実施
- ・改善状況共有 : 信頼性向上対策本部のもと全国の取り組みを共有

本要綱については不断に見直し、信頼性向上に努める。